

数学

<全体分析>

試験時間	120分	解答問題数	5題
------	------	-------	----

解答形式

客観式（式、数値を記入する）が主で、記述式を併用。
記述式は4題で証明が中心であった。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

全体の問題数に変化はないが、確率の問題は実質2題程度の分量があった。複素数平面の問題も昨年と比べ難化している。様々な分野の問題が偏りなく出題されている。難度の高い問題が出題されることが多い。

その他トピックス

微分係数の定義、平均値の定理を用いた単調性の証明など、記述式問題に新しい傾向が見られた。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	微分法	数学Ⅲ	微分係数の定義、微分の可能性	易
2	空間座標	数学B	ベクトルの内積、台形が円に内接する条件、三垂線の定理	標準
3	確率 数列の漸化式	数学A 数学B	状態推移の追跡、条件つき確率 2項間漸化式	難
4	積分と漸化式 無限級数	数学Ⅲ	部分積分により漸化式を作る はさみ打ち	標準
5（1）	複素数平面	数学Ⅲ	アポロニウスの円、原点から直線に下ろした垂線の足	やや難
（2）	整数	数学A	条件を満たす整数の組	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

難度の高い問題を中心に出题され、客観式ではあってもしっかりとした思考力、高度な計算力が問われている。教科書の内容から始め、標準的問題、さらに難度の高い問題に取り組み、じっくり考える練習を重ねてもらいたい。証明を記述させる問題も出題されているので、客観式でない国公立大学の入試問題も参考になる。出題に偏りが少ないので苦手分野を作らないようにしましょう。